

## 柑橘2月の管理

今月は土作りや園地改造などの作業を行います。土壌改良や園地改造は多くの労力を費やすので敬遠されがちですが、高品質果実の連年結果や作業効率の向上のためには重要な作業となりますのでぜひ実施してください。

伊豆農業研究センターの生態調査によると、柑橘の肥大は、ヒュウガナツはやや小玉傾向でそれ以外はほぼ平年並みとなっています。果実内容は低糖傾向で推移しています。1月5日に東部営農センターで行ったはるみの分析では、平年並みの酸切れとなりました。

長期予報では気温は、平年並みから暖かいという予想ですが、不知火等のこれから出荷を控えている中晩柑類は早めに収穫し寒波による被害を防ぎましょう。

### 柑橘生態

表1 果実肥大（平成29年12月27日現在 伊豆農業研究センター調べ）

年度	ヒュウガナツ			川野ナツダイダイ		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
29	64.1	56	115	95.9	75	128
平年	71.3	61	117	97	74.8	130
28	70.8	61.3	115	101.1	76.8	132
27	63.3	54.4	116	100	79.6	126

年度	不知火			はるみ		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
29	83.4	80.5	104	75	61.6	122
平年	83.3	77.5	108	77.8	62.7	124
28	86.5	79.3	109	82	69.3	118
27	88.2	81.6	108	80.6	66.2	122

表2 果実品質（平成29年12月27日現在 伊豆農業研究センター調べ）

年度	太田ポンカン		川野ナツ ダイダイ		ヒュウガ ナツ		不知火		はるみ	
	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %
29	11.2	0.99	9.5	2.37	9.9	2.77	11.4	1.36	11.2	1.18
平年	12.1	0.96	9.7	2.30	10.0	2.59	13.0	1.46	12.1	1.19
28	11.3	0.90	9.6	2.20	9.5	2.52	12.0	1.36	11.5	1.29
27	12.7	0.70	9.5	2.15	10.4	2.41	13.3	1.63	12.2	1.07

### (1) 土壌管理

#### ①土壌pHの矯正

柑橘園の土壌はpH5.5～6.5が適正とされています。土壌は降雨や化学肥料の施用により酸性に傾きます。酸性化した土壌では有効微生物の活動や根の生育が阻害されたり、リン酸が吸収されにくくなったりと悪影響が出ます。下記の表を参考に苦土石灰または苦土セルカを施用してください。また、毎年9月には土壌分析を行っていますので、自園地の状況を知るために有効に活用してください。

表3 土壌pHと苦土石灰施用量(10aあたり)

土壌 pH	苦土石灰(袋)
5.5～6.5	5
5.0～5.49	8
4.99以下	15

#### ②有機資材の投入

土壌の通気性や保水性といった物理性を向上させるために有機物の施用を行いましょ。有機物は10aあたり1～2tを目安に施用してください。未熟な堆肥を使用すると根を傷めたり、窒素飢餓を生じる原因になりますので完熟したものを使用してください。

また、表層施用の他にザンゴウ施用やタコツボ施用などがあります。ザンゴウ施用は幅30cm、長さ1m、深さ30cm程度のザンゴウを、タコツボ施用は幅30cm、深さ30cm程度の穴を数箇所樹冠下に掘り、有機資材(ハイフミン等1穴2kg)+固形肥料(グッドラック等1穴6～10個)を混ぜ込んで埋め戻します。幅と深さはスコップでそのまま掘れる程度で十分です。ザンゴウ施用やタコツボ施用のような、部分的深耕を伴った有機物の施用を行うことで、土壌の物理性が大きく改善されます。しかし、一度に行うと根を切りすぎてしまい樹に対する負担が大きくなるので、樹勢をよく観察しながら、計画的に実施してください。

### ③中耕

①・②の資材を投入後、中耕して土壌と混ぜるようにしましょう。中耕を実施することにより施用した資材の流亡を防止する効果があります。また、細根が切れることで、新しい根の発生が促されます。タコツボ施用と同様に、一度に多くの根を切ると樹勢の低下に繋がりますので、3～4年かけて計画的に実施してください。

### (2) 間縮伐

密植園が増加しています。密植の弊害は次のような点が挙げられます。間伐実施年度には収量が低下しますが、翌年以降は安定した収量を得ることができます。高品質化と省力化のために剪定に先立ち計画的に間縮伐を実施しましょう。

- ①枝が立ち上がり着果部位が上がる。
- ②病虫害が発生しやすい。
- ③光が果実や葉に当りづらくなるので着色不良や品質低下を起こす。
- ④作業性が極めて悪くなる。
- ⑤ニューサマーの受粉がうまくいかない。

### (3) 貯蔵管理

貯蔵管理は先月の管理を参考にしてください。2月も中下旬になると気温が上がり始めます。定期的に庫内の点検を行ってください。温湿度に注意し、必要に応じて朝晩に換気を行ってください。

### (4) 果皮障害・寒害対策

近年、中晩柑類の果皮障害の発生が大きな問題となっています。今年の冬は暖かく推移していましたが、今後は寒波襲来の恐れもあります。果皮障害、寒害は気象条件に大きく左右されます。気象予報には十分注意し、果面の状況を確認し、被害が発生する前に収穫を行ってください。

#### ①果皮障害対策

- ・今年中は晩柑類の生育が全体的に進んでいる為、果実の収穫を早めに行ってください。
- ・袋掛けした果実は、袋下部に切り込みを入れて排水を促す等、袋内部が過湿にならないよう注意してください。

#### ②寒害対策

- ・寒波の襲来が予想された場合は、寒害を受ける前に収穫し、貯蔵してください。
- ・樹体被覆・袋掛け・防風林の整備等を実施してください。
- ・積雪があった場合は果実と枝から雪を速やかに落としてください。

### (5) 灌水

乾燥は樹勢の低下や落葉などにつながります。降雨が無く土壌が乾燥している園は10aあたり5～10t程度の灌水を実施してください。灌水は午前中に行いましょう。

※農薬安全使用基準を厳守し、出荷前に必ず防除履歴を提出しましょう！！